

仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 中間案

に係る市政モニターアンケート調査結果について

1. 回収結果

- ・ モニター数 195名
- ・ 回答者数 174名
- ・ 回答率 89.2%
- ・ 回答者の年齢構成

	回答者数(人)	構成比(%)
1. 20歳代	14	8.0
2. 30歳代	33	19.0
3. 40歳代	38	21.8
4. 50歳代	28	16.1
5. 60歳代	29	16.7
6. 70歳以上	32	18.4
合計	174	100.0

2. 設問項目ごとの主な意見及び集計結果

(1) 設問項目

【高齢者保健福祉計画分野】

高齢者保健福祉計画分野(第1章～第4章)の下記の点について、ご記入ください。

- (1) 第3章では「基本目標」とその実現に向け、「3つの基本的な方向」を示した上で「7つの施策」を体系付けています。その内容について妥当だと思いませんか。また、その理由もお書きください。
- (2) 第4章では施策の体系に基づいた取り組みの概要について記載しています。その中でも特に重点的に市が取り組むべき項目は、どの項目だと思いませんか。該当する番号すべてに○をつけてください。また、その理由についてお書きください。
- (3) その他、高齢者保健福祉計画分野(第1章～第4章)についてご意見等がありましたら、自由にご回答ください。

【介護保険事業計画分野】

介護保険事業計画分野(第5章～第6章)の下記の点について、ご記入ください。

- (1) 現在の介護保険制度について、日頃どのように感じていますか。
- (2) 65歳以上の方(第1号被保険者)の介護保険料の段階設定及び試算についてどう思いませんか。
- (3) その他、介護保険事業計画分野(第5章～第6章)についてご意見等がありましたら、自由にご回答ください。

(2) 設問項目ごとの主な意見の概要について

【高齢者保健福祉計画分野】

高齢者保健福祉計画分野（第1章～第4章）の下記の点について、自由な意見をご記入下さい。

(1) 第3章では「基本目標」とその実現に向け、「3つの基本的な方向」を示した上で「7つの施策」を体系付けています。その内容について妥当だと思いますか。また、その理由もお書きください。

【意見の分類】

内 容	市政モニター	
	意見数（件）	割合（％）
妥当だと思う	121	69.5
妥当だと思わない	5	2.9
わかりにくい、具体性がない	10	5.7
実現することが重要	4	2.3
その他	26	15.0
未回答	8	4.6
合 計	174	100.0

*以下、各意見の中から一部を抜粋し掲載

（妥当だと思う）

- 3つの基本的な方向や7つの施策は概ね妥当だと思う。3つの枠組みは不変的な内容で、今後あまり変わらないと思うので。
- 健康寿命を延ばす・在宅での介護を促進する・介護人材を拡大する。この3つの基本的な方向性をもって、来年度からの3ヶ年の計画を実行して欲しい。
- 今時点で計画を立てるとしたら、これがベターだと思う。超高齢化、人手不足、国と地方の財政悪化、債務負担、インフラ維持のための財政支出の負担増等々考えるだけでも見通しは悪いことばかり。計画をがっちり固め、広げすぎずに愚直に実行していくしかないと思う。
- 挙げられている内容は、いずれも不可欠なものであり、方向としては妥当だと考える一方で、地域の事は地域と言う考え方は、頭では理解できるものの、地域が疲弊しつつある中、リーダーシップをとってくれる人材と、その後ろ盾が必要になると強く感じる。
- 現在高齢化率 30%に達しそうな勢い。そのため、一般の人とも共存でき扶助の傾向が叫ばれる今、認知症サポーター制度、地域包括ケア、多様化の取組はこれから大切なことだと思う。
- 現状と課題の的確な認識を踏まえた基本的な施策の方向性に問題はない。現実的には、町内会執行部を如何に巻き込んで取り組むかが鍵になると思う。
- 高齢者の健康の度合いによって、様々な施策が考えられていることが良いと思う。健康以外にも貯蓄や家族構成、介護する人の負担等も、もう一歩踏み込んで考慮されれば良い。

（妥当だと思わない）

- 住み慣れた地域に住むのではなく安心して安く入居できる施設が増えた方が良い。安くて汚くて重労働と言われ、それが原因の介護職員による殺人も起きている。
- 介護をする子供世代がサービスを使いやすくしてあげる視点が抜けていると思った。被介護者に、より良いサービスを提供する介護者に、重要な情報が届かない印象を受けた。

（わかりにくい・具体性がない）

- スローガンはとても良い方向だと思うが、具体的にきめ細かい策はまだまだである。
- あまり具体性のない案のように感じた。中間案なのでこれからだと思うが、具体性が必要。

(実現することが重要)

- 単なる計画・絵に描いた餅にならないよう実施・実現できるようにするのに至難であろうし、最大努力を講じる必要がある。
- 文章の内容は大変ご立派だが実際にやれるかどうかである。

(その他)

- 高齢の方は、その人にしかない味があり、知恵袋的な感じで地域で活躍して頂ければと思う。そうなるには、日頃からおせっかいではない感じで周りの方と関わるのが大事。
- 住み慣れた地域で生活する為に公的サービスは絶対だと思うが、高齢者が増え続ける現在限界があると思う。誰しも老いは避けて通れない道なので、みんなで支える取り組みが大事。
- 大変立派な地域包括ケアシステムで、施策体系は密度が高く素晴らしいと思うが、生活圏域を中学校区で考えているようで、様々な施設の必要性を考えると「場」として狭過ぎる気がする。
- 後期高齢者は年金にも恵まれている現実を考慮すれば、周辺の人々に迷惑をかけないで自立するという理念を持たなければ、仙台市が目指す地域包括ケアシステムは実現しない。高齢者は日常生活において周辺の人々にお世話になっているという謙虚な姿勢が最も大切と思う。

- (2) 第4章では施策の体系に基づいた取り組みの概要について記載しています。その中でも特に重点的に市が取り組むべき項目はどの項目だと思いますか。また、その理由についてお書きください。
【項目別に意見を分類（一人複数回答を含む）】

内 容	市政モニター	
	意見数(件)	割合(%)
(1) [施策1]健康と元気でいられる環境づくり	81	16.9
(2) [施策2]知識・経験や能力を生かして活躍し続けられる機会の充実	69	14.4
(3) [施策3]必要な支援を得ながら自立した生活を続けられる体制づくり	76	15.8
(4) [施策4]地域の資源やつながり、専門職の連携を生かした地域の支え合いへの支援	40	8.3
(5) [施策5]認知症の人が安心して暮らせるまちづくり	51	10.6
(6) [施策6]介護サービス基盤の整備	79	16.5
(7) [施策7]高度化する介護ニーズへ対応できる人材の確保	80	16.7
未回答・その他	4	0.8
合 計	480	100.0

*以下、各意見の中から一部を抜粋し掲載

(1)健康と元気でいられる環境づくり

- ・何をしても、人の手を借りずに歩いたり自分の身の周りのことを自分自身で出来ることが一番だと思うので、怪我や病気になりにくく体力を保持する活動、環境づくりは必須。
- ・介護の予防は必要だし、安心して生活できる体制も必要。情報をどこで入手できるかも重要。
- ・健康でいることが介護に関わる人材の削減にもつながると考えており、一番効果の高い施策。
- ・健康でないと何事も出来ないし、健康でいれば余計なお金は使わなくて済むと思う。
- ・一人一人が、健康で「心身の疾病が無いばかりでなく、心の面でも」過ごすことが、高齢化社会を楽しく過ごす第一歩だと思う。

- ・高齢者一人一人ができるだけ健康づくりに努力したり、健康への意識を高める事が、何よりも大事だと思う。それが財政や医療の圧迫を回避できる道だと思う。
- ・高齢者の介護体制を充実させるのは勿論だが、介護を必要とする人を減らす、介護度をより軽い度合いに留める、元気な期間を長くする取り組みが必要なので、健康と元気でいられる環境づくりは最も大切な施策。

(2)知識・経験や能力を生かして活躍し続けられる機会の充実

- ・心と体の健康や生きている喜びを感じ、エネルギッシュな高齢者を増やすことで、病気の人を減らすという考えをしたい。
- ・高齢化が急速に進むが、まだまだ現役並みに活躍できる方が沢山いる。そのような方のこれまでの経験等、私たちでは教えられない事が多く、若いこれからの世代と高齢者とをつなぐ何かがあればいいと思う。
- ・高齢者でもまだまだ元気な方がたくさんいる。活躍し続けられる機会が充実すれば、生きがいを感じると思う。
- ・高齢者（元気な人）への就労機会が増える施策が必要と思う。働く意欲がある高齢者には仙台市が100%就労を斡旋するセンターを設立して欲しい。介護入所者にも、軽易な仕事を用意するべきではないか。
- ・必要とされる実感と、人との交流があれば、健康は維持できると思う。
- ・人は必要とされることで生き甲斐を見出すことができると思う。今まで培ってきた知識や経験を、次世代の方々に伝える環境を作してほしい。

(3)必要な支援を得ながら自立した生活を続けられる体制づくり

- ・一人になった時に自立していくことが私としては理想。そのためにも、地域包括支援センターによる支援の充実はとっても心強いです。
- ・もし私が高齢になるまで生きていて生活をするとしたならば、やはり1番は自立した生活をできるだけ営みたいと思う。
- ・高齢者自身ができないことに手を貸し、生活の基盤は変えないというのが現実的であり、自分だったらそれを望む。
- ・市の財源にも限りがあるので、本人の残存能力を保つような支援や体制が大事だと思う。
- ・介護従事者の負担軽減のためには、自立・活躍を促す取り組みに重点を置くことが必要。
- ・自立した生活が介護を進行させない予防策となると思う。

(4)地域の資源やつながり、専門職の連携を生かした地域の支え合いへの支援

- ・地域包括支援センターを中心にした多職種連携が非常に重要。
- ・地域のボランティアやサポーターの方の早期育成が必要。
- ・町内会執行部や老人クラブの高齢化が急速に進んでおり、組織的な活性化や活力向上に向けた仕掛けに工夫が必要。
- ・専門家のアドバイスを聞ける場や、相談できる場があるだけでも、少しでも在宅を続けられる機会につながるのではないかと。子育てと同じで、介護に対しても支援センター等で状況に応じた支援を受けたい。
- ・地域のつながりや支え合いがうまくいけば、フォローできることも沢山ある。それが他の項目の実現にもつながると思う。
- ・地域単位のコミュニティで、介護が必要な方や、介護を必要とする家族の方々を支える仕組みづくりが必要だと感じた。
- ・地域のつながりが最も大切。

(5)認知症の人が安心して暮らせるまちづくり

- ・認知の方は安心して暮らし、周りからの理解が必要と思う（ご本人はもちろんですがケアのご家族も）。
- ・認知症の方の家族も多く苦労があると思う。対処方法等の相談できる場を増やしてほしい。

- ・市、地域包括、介護施設だけでなく、医療機関や生活の場全てが途切れなく連携していくことが理想的である。
- ・認知症は徐々に進行すると言うが、種類によって症状が違っても聞く。健康で元気な人が安心して暮らすためには、認知症になっても安心なまちである必要がある。
- ・認知症の方への対応をする家族は、体力・精神的に疲れている。程度にもよると思うが、徘徊する方もいる。地域全体でこの問題に取り組み、そういった方をみかけて何かおかしいと思ったら、警察以外の相談できる仕組みがあれば、より良いのかなと思う。
- ・認知の人を連れて行ける所を作ってほしい。音楽を聞いたり、お話を聞いたり家の者と一緒に参加出来たらと。勿論無料で出入り自由ということでボランティアの力もお借りし参加したい。
- ・認知症カフェや集まれる場があれば、家や施設に閉じこもらずにすむかもしれない。
- ・かかりつけ医のレベルアップの為に、研修制度の充実、待遇改善、地域格差をなくす等の点を重視したカリキュラムの必要性を感じる。

(6)介護サービス基盤の整備

- ・実際に介護が必要になった際に、十分なサービスが受けられないことはとても不安になる。
- ・現在の特養はかなり良くなっていて、特養に入れた人はいいかもかもしれないが、その他大勢の困っている人の事を考えると、ショートステイを増やしてほしい（費用を安く）。特養は、多床部屋を増やして多くの人が利用できるように。有料老人ホームに入れる人は限られている。
- ・施設サービスは、個人の努力でどうにもならないので市等の行政において充実を図ってほしい。
- ・整備充実はもちろんだが、一般人への理解を深める対策が必要と思う。
- ・介護施設も経営が成り立たない所が多かったり、サービスの質が低い所もあると思うので行政が介入するべきだと思う。
- ・（施設に）入りたくても入れない状況では本人も家族も不安。私たち若い世代も負担が大きくなるし、将来が不安になるので整備は必須。
- ・自分自身も介護職に興味もあり資格取得もしたいが、金額面、時間等なかなか踏み込めないでいる。無資格でも勤務可能な場所も今日増えているが、何の知識もないまま介護職は危険であり難しいと思う。
- ・短期的には「環境や体制等現状の改善」、長期的には「宮城県内での仙台への一極集中」を考慮しなければならない。体力に乏しい県内の自治体では、介護制度が破綻する危険がある。また高齢者は、より良い生活・医療・福祉等の体制の整った「仙台市圏」に集中してることが容易に想像され、さらに東北の他県の高齢者も「出来るならば仙台へ」という思考をもっている。従って、この施策はあくまで「仙台市内の高齢者の推移」で計画されているが、現実的にはその推定数を上回る形で進行すると考えるのが妥当。そうした理由から「基盤の整備（特に想定数を上回っての）」が重要。
- ・老人ホーム等で交流したり、子供達が訪問することによって、孤立することが少なくなると考えられる。

(7)高度化する介護ニーズへ対応できる人材の確保

- ・介護が必要な身となった時には、心に寄り添ってくれる人や物理的な介護の他、話し相手やお友達的に近くに居てくれる人が必要だと思う。
- ・制度が如何に完全だとしても、それを実際に動かす人材がいなければ、絵に描いた餅になってしまう。
- ・高齢者には健康を維持して頂き、保育所に預けられない共働き家庭の子育て要員に回っていただくべきと考える。
- ・肉体的にも精神的にも大変な仕事だと思うので、その対価もしっかりしていただきたい。
- ・人材の待遇改善は最優先で行うべき。
- ・健康で元気な人と、認知症と診断されるまでの過渡期の高齢者の幸せは、対応できる人材の資質によるところが大きいと思う。

- ・人材がいなければ始まらない。国も賃金の面等働きやすい環境を整えるべき。
- ・介護施設で働いている方の話を聞いたことがあるが、とにかく低賃金であるので、人材の確保が難しいとのことである。
- ・介護職の賃金を上げて欲しい。大変な重労働なのに、あまりにも賃金が低すぎて辞めていく方も多いと思う。
- ・介護ニーズに対応する人材の確保は介護サービスの最低要件です。ハードがあっても、ソフトが機能しなければサービスは機能しない。
- ・介護職員の求人をよく見かけるが、資格のあるなしによって給料が異なっているため、資格を持たない若者がその道を避けると思う。それに加え、ニュース等でたまに取り上げられることによって「給料が安い」「重労働」といったイメージがあり、若者が希望しないことも多い。中間案をみても、27年度から28年度にかけ団体や支援センターは増えているのに対して、説明会に参加する人数が横ばいであるため関心を引き付けられていないと感じる。職員の確保を重点的に行うべきなのではないか。

(3) その他、高齢者保健福祉計画分野（第1章～第4章）についてご意見等がありましたら、自由にご回答ください。

高齢者保健福祉計画分野全般については、主に以下のような意見が寄せられました。

*以下、各意見の中から一部を抜粋し掲載

- これまで3世帯同居や子孫の多い家族では解決できたことが、一人や二人の高齢者の家族では解決できず、外にも中々出にくくなっていく。近くの商店街がコンビニに変わり、病院が減り、パソコンやスマホも使わないので当然SNS等で交流することもない。家でテレビをつけるといろいろな人とつながる、玄関を出て少し歩いたところには「よろづや」的なものがあり、そんなことができないかなと思う。
- 高齢者福祉を単独で考えるより子ども世代等、他の世代と総合的に福祉を考えるのが有効だと思う。例えば、幼児親子×高齢者、放課後倶楽部×高齢者等、場所を分けずに1ヶ所で一緒に楽しむ又は別々に楽しんでもいいと思う。また仙台には、大学、専門学校が沢山あり、若い力、知恵がある。介護と一緒に実践を交えて学ぶとか、インターンとして働いてもらうとか、お互いのメリットにもなりうると思う。それから個人情報保護の問題もあるが、個人の情報をもっと把握できればいろいろなことができると思う。
- 若い時からボランティアでポイント累計に行き、人生後半、そのポイントを活用できるように世の中回していけたら良いと思う。
- 第1章～第3章を具体的に実行するための「第4章についての仙台市としての実施内容の決定・実施計画の点検評価」の市民向けの情報提供が必要。例えば、説明会の開催、区役所単位（きめ細かく意見交換可）及び市政だより等にて。
- 空き学校、専門学校等を使って老人学校を開設した方が良いかなと思う。
- 一通り読んでみたが、現在の高齢者やこれから高齢者となる人のニーズをどの位反映させたのかと感じた。高齢者が大変なのは、買物・食事・清掃・ゴミ出し・通院・各種手続等生活に密着した部分だと思う。「介護」という側面ばかりに光を当てると、「自立して生きる」ことの本質の部分から外れてしまうことにもなるので、「生活充実＝介護予防」的な発想を求めたい。
- 中学校敷地内に老人福祉センターと地域包括支援センターを置き、施設も人材も互いに利用できるようなすべがいいと思う（中学校の図書室管理に高齢者を雇う、プール脇に風呂を作る、体育館を共用する、給食を食べられるようにする、登録すると授業を受けることができる等）。

- 仙台市としてのサービスレベルを決め、それに合わせた住民構成を実現すべき。現状の構成を前提に進めていくと、提供できるサービスと求めるサービスが中途半端にしか合わず、受けられるサービスに対して、運・不運が伴った運用になってしまう。必要なサービスを必要な人が受けられるには、提供する側と提供される側に十分なコスト負担が可能な収入が必要。
- 幼児～子供達も高齢者との関わりが持てるシステムもあれば相互に良い効果が得られるかも。
- 市内の小・中・高校生に介護ボランティアを義務付け、地域介護の実態を学ばせる（実習として）。地域包括支援センターの存在が一部しか知られていない（認知されていない）、ニックネームやマスコット・ゆるキャラ等でPRを企画すべき。
- 高齢者の方の事故が多発しているの、車を使わなくていい交通網の整備も進めてほしい。
- 今後は「IoT」や「情報銀行」「AI」等新テクノロジーが目白押しである。各団体との連携や介護者のサポート、高齢者の財産管理等情報の活用は必須である。
- 学都・仙台らしく、AIやスマホを始めとしたITの活用により、高齢者の検査結果のモニタリングを行い、異常を早期に検出する仕組み等も検討できないものか。
- 仙台が特に独自に取り組もうというものが見えてこない。

【介護保険事業計画分野】

介護保険事業計画分野（第5章～第6章）の下記の点について、自由な意見をご記入下さい。

(1) 現在の介護保険制度について、日頃どのように感じていますか。

【意見の分類】

内 容	市政モニター	
	意見数(件)	割合(%)
分からない・実感がわからない	54	31.0
保険料が高い・制度への不安	35	20.1
心強い・充実した制度	13	7.5
独自策・制度見直しを検討	12	6.9
施設整備・人材確保	13	7.5
その他	36	20.7
未回答	11	6.3
合 計	174	100.0

*以下、各意見の中から一部を抜粋し掲載

(分からない・実感がわからない)

- 自分自身、現在介護サービスを受けていないため、制度の詳しい内容等理解していない。
- 身近に高齢者がいないので、正直よくわかっていない。
- 利用する為の申請や審査がまだまだ複雑。高齢者には分かりにくい。
- 財源やその使用の内訳等が非常に分かりにくい。

(保険料が高い・制度への不安)

- 制度の内容に関しては妥当なものだと思っているが、負担の面で今後も増加することを考慮すると、いずれかのタイミングで制度を見直す必要があるのではないかと感じている。
- 今後急激な高齢化に伴い、財政破綻しないか心配である。
- 大変ありがたい制度だと思うが、これから高齢者が増えていった場合成り立つのか不安。

(心強い・充実した制度)

- サービスは充実しているように思う。
- 父が特別養護老人ホームにお世話になりとても助かった。このような制度があることは、介護する方がとても心強いと思う。

(独自策・制度見直しを検討)

- 介護を家族だけで行うものから、社会で担っていかうという良い制度と思うが、国はもっと負担すべきと思う。
- 国が無駄な税金使いをし介護保険料あげるし、保険適用のレベルをあげている。保険制度は崩壊しつつある。国の制度ではなく市独自の制度をつくるべき。

(施設整備・人材確保・その他)

- 介護保険サービス→人材の確保と、質の高いサービスが望ましいので、処遇の改善とかにも目を向けてほしい。
- 制度は十分なものと思われるが、利用に当たって施設の収納能力や人的財が不足している。
- 特別養護老人ホームは、待機者が多く待ちの時間が長い。民間業者は料金が高額であるか、サービスや安心が劣り生活環境も悪い。貧富の差で老後の生活に圧倒的な差が出るのは、行政の力で避けなければならない。
- 介護保険料の使い道が周知不足に感じる。
- 介護の項目と窓口が多すぎて利用者に不親切である。窓口を一本化できないものか。介護保険料は今回のデータを見て当然だと思った。知らなければ高いと不満があったと思う。
- 介護保険を払ったがサービスを受けない方もいるので、そのような人にとっては不公平。

(2) 65歳以上の方(第1号被保険者)の介護保険料の段階設定及び試算についてどう思いますか。

【意見の分類】

内 容	市政モニター	
	意見数(件)	割合(%)
概ね妥当(やむを得ない等の回答含む)	39	22.4
高い・納得できない等	26	15.0
国等の負担増・財源見直しが必要	18	10.3
高所得者はもっと増額・より細分化すべき	16	9.2
わからない	21	12.1
その他	31	17.8
未回答	23	13.2
合 計	174	100.0

*以下、各設問の意見は代表的なものを抜粋

(概ね妥当)

- 妥当と考えている。現状では、もっと増やして欲しいのが本心。
- 皆でつくる保険の制度なので、皆平等というわけにもいかないのでは仕方ないことと思う。
- サービスを受ける高齢者数が増加するので、保険料の値上げはやむを得ないと思う。

(高い・納得できない)

- 年々保険料が上がっていくのは重い。
- 健康維持のために、若いころから費用をかけ努力してきている。その経費を全く計算に入れず所得だけを基準に保険料額を決めているのはおかしい。
- 全く納得できない。高齢者いじめ。介護保険制度スタート時点の説明とあまりにも違う。

- 単に利用量が増加するから保険料を増額しますでは納得いかない。保険料の軽減される方は介護ボランティア（ポイント加算制）で基準額相当までボランティア活動する仕組みを入れて欲しい。基準額より増額される方へは市より特典（介護インセンティブ）があっても良い。

（国等の負担増・財源見直し等が必要）

- 国・県・市の負担を多くしていただきたい。
- 市町村民税・所得金額を基準として、一律に算定する方式だけではなく、介護の利用頻度に応じた保険料についても考慮すべき。
- 支え合いの制度ではあるが、後期高齢者の年金からも引かれるのは不満。1度も介護保険制度を利用していない75歳以上がいる世帯であるが、この層からも徴収するのは、介護保険制度がうまくいっていないのではと思う。1度も利用していない介護保険にこんなに支払うのは納得していないが、それでも義務で支払っている人が多いのではと思う。
- （介護サービスについて）全く利用が無ければ減額はできないのか。

（高所得者はもっと増額・より細分化すべき）

- 年収が800万円以上の高所得者の保険料はもっと上げて良いと思う。非課税世帯の方の保険料はもっと下げるべき。
- もっと段階数を増やし、高額所得者の保険料を上げる必要がある。また、高額所得者の利用料金を上げる方法もある。
- 所得によって負担額の増減は当然であり、12段階をさらに増やしても良いのでは。
- 高所得者層にはもっと負担してもらってもいいのではないか。他の年齢層に比べ高齢の方には、非常に裕福に見える方が多いように思う。

（わからない）

- はっきりいって妥当かどうかわからない。
- 全然分からないので、高いのか安いのかも分からない。実際自分に関わるようにならないと、本気で調べたり考えたりしない。

（その他）

- （段階の）1～5がとても安いので、夫の収入に頼り生活費のため我慢している多くの主婦は離婚して生活保護を受けた方が楽ではないか。
- 保険料の対象者について課税年金収入額となっているが、非課税年金を除くのは不服である。もらっている年金を、公平に評価してもらいたい。
- 第七期の保険料は第一期の約二倍。長生きはハイリスク。

（3）その他、介護保険事業計画分野（第5章～第6章）についてご意見等がありましたら、自由にご回答ください。

介護保険事業計画分野全般については、主に以下のような意見が寄せられました。

*以下、各意見の中から一部を抜粋し掲載

- 介護保険について身近な話題ではなく、今回の資料だけではわからないことが沢山あったので、講座等で詳しく学びたいと思った。しかしどこでどのような講座があるのかわからない状態なので、市政だよりや新聞、情報紙等でお知らせいただけたらと思った。
- 大学生や退職者、会社に勤務する人、主婦等も看護師や介護関係の資格を取るよう努めていただきたいので、働きながら学べる制度があれば良いと思う。
- 介護保険は生命保険とは異なるものと思う。支払うばかりの者と、要領よく恩恵を受けている者との格差を是正・考慮願いたい。

- 少ない年金でも利用できる施設を沢山作ってほしい。地域に密着した小規模多機能型居宅介護サービスは将来利用したいサービスである。
- 保険給付費の財源構成を国・県・市が 20%、第 1 号保険料を 15%、第 2 号保険料を 25% 負担にすべきである。
- 行政全般において、基本的に申告制であるが、これら施策を行うにあたり介護保険料の支払い有無に関わらず、受益者に詳細で丁寧な通知と案内、医療と福祉の促進案内を拡充すべき。
- サービス内容等気軽にインターネット上で質問できるとうれしい。さらに過去の質問が閲覧できると参考にできる。
- (介護保険料は) 年齢に関係なく、高額所得者層には多く負担してもらった方がいいと思う。格差がますます広がると予想されるこれから、それは仕方がないことではないか。
- 勉強不足もあると思うが難しい内容に感じた。わかりやすいパンフレットの作成、学生向け講演会等を行ってほしい。